

漢法苞徳塾資料	No. 014
区分	医古文・陰陽
タイトル	陰と陽：諸家の説
著者	八木素萌
作成日	

徐霊胎『雜病源』「陰陽」より

……如求汗于血・生氣于精・從陽引陰也。引火歸原・納氣歸腎・從陰引陽也。此即水中取火・火中取水之義。

陰之病也・其来緩・其去亦緩。陽之病也・其来速・其去亦速。陽生于熱也・陰生于寒也。陽病則旦靜・陰病則夜寧。陽虛則暮亂・陰虛則朝争。蓋陽虛喜助陽・則朝輕暮重。陰虛喜助陰・則朝重暮輕。此言陰陽之虛也。若系実邪・与此相反・陽盛則朝重暮輕・陰盛則朝輕暮重。此陽逢陽旺・陰得陰強也。其有或昼或夜・時作時止・不時而動者・以正氣不能主持・則陰陽勝負交相錯亂・当培養正氣・則正氣勝而陰陽將自和矣。但或水或火・必因虛実以求之。

……氣は精より生ずは陽より陰に引くなり、火を引いて原に歸えし氣を納めて腎に歸せしむは陰より陽に引くなり、此れ即ち水中より火を取り火中より水を取るの義なり。……

陰病 …… 来ること緩和、寒えを生ず、夜には寧らか

陽病 …… 来ること急速、熱を生ず、旦には静か

陰虛 …… 陰を助ける事を喜ぶ・朝には症状が重く暮には軽くなる

陽虛 …… 助陽を喜び朝は軽く暮には乱調になって重い

陰盛（邪実）…… 朝には症候は軽いが暮には重くなる、
此れは陰が陰性の邪に逢う為に陰気が盛んになるからである

陽盛（邪実）…… 朝には症候は重く暮には軽くなる、
此れは陽が陽性の邪に逢っている為に旺気するからである

徐霊胎『雜病源』「陰陽」より

……以病言陰陽・則表為陽・裏為陰。熱為陽・寒為陰。上為陽・下為陰。氣為陽・血為陰。動為陽・靜為陰。言多為陽・語默為陰。喜明為陽・欲暗為陰。陽微不能呼・陰微不能吸。陽病不能俯・陰病不能仰。

陰病	……	仰ぐ事が出来ない、暗い事を喜む、虚すと吸えない
陽病	……	俯す事が出来ない、明るい事を喜む、虚すと呼気困難

……経曰「陽氣有余・為身熱無汗」・此言表邪之実也。「陰氣有余・為多汗身寒」此陽氣之虚也。仲景曰「発熱惡寒発於陽・無熱惡寒発於陰」。

陰氣の有余とは陽氣の虚であるから、汗が多く身体は寒い。無熱惡寒は陰に発る。
表邪の实は発熱して汗が出ない。発熱惡寒は陽に発る。

……命門有陰虚・以火熱之偏勝也。火熱之偏勝・緣其真水不足。故或為煩渴・或為骨蒸・或為咳血吐血・或為淋濁遺泄・明是火證・而本非邪熱実熱之火。蓋実熱之火其来暴・而必有感冒之故。虚熱之火其来徐・而必有積損之因。此虚火・実火之大有不同也。実火之火・可以寒勝・可以水折・所謂熱者寒之也。虚熱之火・不可以寒勝・不可以直折・所謂勞者温之也。

此は火熱の状態の「実熱」と「虚熱」の辨別と治療原則とを論じている。

「命門の陰虚」は「火熱の偏勝」である。これは「真水の不足によって」起こっている為であり、「実熱」は必ず感冒に由来して発症は急速である。然し、「虚火」の熱はジワジワと来る、それは積損が原因である為である。「虚熱」は温補補水で治療する。実熱は寒冷で冷やして熱を瀉す治則に従う。

明・趙献可『医貫』では

陰陽之理・変化無窮・不可尽述・姑举其要者言之・夫言陰陽者・或指天地・或指氣血・或指乾坤・此対峙之体・其实陽統於陰・天包於地・血随於氣……古人善体易義・治血必先理氣・血脱益氣・故有補血不要四物湯之論・如血虚発熱・立補血湯一方・以黄耆一兩為君当歸四錢為臣・氣薬多而血薬少・使陽生陰長・又如失血暴甚欲絶者・以独参湯一兩頓煎服・純用氣薬・斯時也・有形之血・不能速生・機微之氣・所当急固・使無形生出有形・蓋陰陽之妙・原根於無也・故曰無名天地之始・生死消長・陰陽之常度合・豈人所能率損益哉・聖人裁成天地之化・輔相天地之宜……

……凡辛甘者属陽・温熱者属陽・寒涼者属陰・酸苦者属陰・陽主生・陰主殺・司命者欲人遠殺而就生・甘温者用之・辛熱者用之・使共躋於春風成長之域・一応苦寒者俱不用・不特苦寒不用・至於涼者亦少用・蓋涼者秋氣也・万物逢秋風不長矣・或時当夏令・暑邪侵入・或過食炙煬辛熱而成疾者・暫以苦寒一用・中病即止・終非濟生之品……

……天上地下・陰陽之定位・然地之氣每交於上・天之氣每交於下・故地天為泰・天地為否・聖人参贊天地・有転否為泰之道・如陽氣下陷者・用味薄氣輕之品・如柴胡升麻之類・举而揚之・使地道左旋・而升於九天之上・陰氣不降者・用感秋氣肅殺為主・若夔麦扁蓄之類・抑而降之・使天道右遷而入於九地之下・此東垣補中益氣湯・万世無窮之利・不必降也・升清濁自降矣・春秋昼夜・陰陽之門戸・一歳春夏為陽・秋冬為陰・一月朔后為陽・望后為陰・一日昼為陽・夜為陰・又按十二時而分五臟之陰陽・医者全凭此・以明得病之根原・而施治療之方術。